

# 古河電工産業電線

## アルミ建設用電線を拡充

### 「アース線用ⅠV」開発

古河電工子会社の電線メーカーである古河電工産業電線（本社・東京都荒川区、社長・小塚崇光氏）はこのほど軽量なアルミ製建設用電線の生産品種を拡充した。避雷針用途や電気設備からの電流を逃がす用途に使うアース線として、ビニルで電気絶縁したアルミⅠVケーブルを開発。同じ電流を流すためサイズをアップした場合でも一般的な銅製と比べて3割軽く、配線作業を効率化できる。

本品と同等の柔らかさを実現していることも特長となっている。サイズは導体断面積38〜400スクエアまでの範

囲で8種類をそろえた。戦略製品であるアルミCVケーブルとともに提案しているほか、アルミ電線の施工研修の場などを通じてPRしている。

同社が製造しているアルミ製建設用電線の販売は、昭和電線ホールディングスと古河電工の合弁会社であるSFCCが行っている。

今後、日本国内では労働人口の減少が見込まれる状況。軽く配線作業性の高いアルミ製建設用電線で電気工事省力化に寄与すること

は、社会課題解決につながる。同社ではアルミ製建設用電線としてCVケーブルなどを製造しているが、市場ニーズに応じて品ぞろえを拡充。アルミ製のⅠVケーブルは非常に珍しいとみられる。

アルミ製ⅠVケーブルは地面からの高さ60センチを超え、部分のアース線として使用するもので、銅導



軽量なアルミ製導体を用いたⅠVケーブル

アルミ製ⅠVケーブルは地面からの高さ60センチを超え、部分のアース線として

